



『危険!! 猛毒 スズメ蜂』

あさの 浅野 しん 心ちゃん (美の浜) H17.3.6生



「二人で楽しくアメを食べています これからも仲良く遊んでねネ!!」

おがわ わかな 小川和可奈ちゃん(笠岡) H16.10.19生
かわたてんゆ 河田 天優ちゃん(北木島町) H16.9.25生



「八才ちがいの姉妹です」

なかがわあいり みゆう 中川愛梨ちゃん 美優ちゃん(笠岡) H9.10.9生 H17.11.24生



「お誕生日おめでとう! これからも元気に大きくな〜れ」

おおたにしゅんま 大谷瞬生ちゃん (富岡) H15.10.5生



「まゆの愛車で〜す!!」

くろすまゆ 黒住真由ちゃん (富岡) H16.8.18生

あなたのお家の自慢できる人や物を紹介します。我が家のアイドル(子どもたち)、家族に人気者のペット、家宝、自分だけの宝物…。そんな自慢に一言メッセージを添えて企画政策課まで送ってください。

展覧会と行事のご案内

竹喬美術館
ベストコレクション
第3期
＜林正明・清水比庵＞
10月3日(火)
～11月12日(日)

ギャラリートーク
10月7日(土)
11月4日(土)
いずれも
13:30～14:30

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

様々な風景を見続けてきた八十六歳の竹喬が、思わず声を上げる景色。ごく単純な画面の構成だが、沈む前の一瞬にひとときを輝く太陽、その輝きを受けた海面には鮮やかな色が拡がっている。《奥の細道句抄絵》シリーズを描くためのスケッチ。

「最上川に近い日本海の落日を見るために、この宿で知己になった運転手さんは、時間を見計らって私たちを車にのせ、下流へ下流へとひた走った。川を離れて畑の中を走り、走った。落日は低い樹々を透けて、も早地平に近づいている。(中略)しばらくして急に車は左に折れて走り、そこには待望の日本海が開けていた。私は思わず歓喜の声をあげた『すばらしい』」(竹喬のことば)



竹喬美術館の光彩 46

日本海 I

小野竹喬 作
昭和50 (1975) 年
18.6×25.8cm

今月の表紙

幟や旗などで色とりどりに飾りつけられた船に載せられた御輿が、海路からお宮入りをする「神島天神祭」。

市の重要無形民俗文化財に指定されたこの伝統行事は、地域の皆さんの手によって永らく伝承されてきました。

勇壮で華やかな総担ぎの賑わいととも、文化財を守ろうとする皆さんの心意気もひしひしと伝わってきました。

係から

秋といえば、「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」といろいろありますが、みなさんはどんな秋をお過ごしでしょうか。私は先日、北の運動会の取材に行きました。子どもから大人まで幅広い年齢層の人が参加し、各地区の代表として一生懸命競技する姿をみて、毎年運動会を楽しみにしていた小学校の頃を懐かしく思い出して、元気を分けてもらいました。私も、日頃の運動不足の解消の為に何か運動をやりたいと思います。



中野素嗣



土屋武之

発行日/平成18年10月1日
発行/笠岡市役所
編集/企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷/株国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス: kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています